



SATOYAMAと持続可能な開発

現場への資金支援と知識形成をつなぐ

2015年7月29日

15:45 – 17:15

パシフィコ横浜

国際会議場501号室

(神奈川県横浜市)

セッション概要

持続可能な開発目標(SDGs)が合意され、この達成に向けて国際社会が動き出す本年、自然環境の保全及び人々の生計向上については、これまでのアプローチのみでは十分ではなく、革新的なメカニズムが求められている。

このひとつの重要な焦点となるのが、生物多様性と人々による生産活動がモザイク状に共存する、いわゆる社会生態学的生産ランドスケープ・シースケープ(里山・里海)である。里山・里海はこれまで生物多様性や生産活動の持続のために重要な役割を果たしてきたが、今現在、多くの里山・里海が危機にさらされている。

本セッションでは、SDGs実施及び関連する国際的な取組における里山・里海の重要性、ならびに里山保全支援メカニズム(SDM)や地球環境ファシリティ(GEF)による里山に関する新たな事業を始めとする資源動員メカニズムに焦点を当てる。また、生物多様性及び生態系サービスに関する政府間プラットフォーム(IPBES)などへの知識形成による貢献も視野に入れ、現場への資金支援と知識形成をつなぐ効果的なデザインのあり方を探る。

セッションの目的

- 1 SDGs達成に向けた里山・里海の重要性について理解を共有する
- 2 資金支援と知識形成の連携の重要性について認識を共有する
- 3 実施強化のための、資金支援と知識形成とを効果的につなぐ取組のあり方を探る

ISAPの最新情報については下記をご覧ください。

<http://www.iges.or.jp/isap/2015/en/index.html>

SATOYAMAと持続可能な開発

現場への資金支援と知識形成をつなぐ

セッションプログラム

501号室

時間	セッション内容
開会及び基調講演(20分)	
15:45 - 15:50	開会の挨拶 星野 一昭 (国連大学サステナビリティ高等研究所 客員教授)
15:50 - 16:05	基調講演(15分) 武内 和彦 (国連大学 上級副学長) ◇ 自然共生社会の形成による持続可能な開発目標への貢献
パネルセッション(70分)	
ファシリテーター: 星野 一昭 (国連大学サステナビリティ高等研究所 客員教授)	
16:05 - 16:10	SATOYAMAイニシアティブに関する取組の概要(5分) 鈴木 涉 (国連大学サステナビリティ高等研究所 SATOYAMAイニシアティブ 国際パートナーシップ事務局 次長) ◇ SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ(IPSИ)及び関連する国際的な資源動員メカニズムの概要
16:10 - 16:20	パネル発表1(10分) 渡辺 陽子 (地球環境ファシリティ アジア地域マネージャー・上級生物多様性専門官) ◇ 里山・里海における生物多様性保全主流化に向けた資源動員と知識管理について
16:20 - 16:30	パネル発表2(10分) 日比 保史 (コンサベーション・インターナショナル バイスプレジデント) ◇ 地球環境ファシリティの支援を受けた、世界の里山・里海の持続可能な管理に関する新たなプロジェクトの紹介
16:30 - 16:40	パネル発表3(10分) プラサート トゥラカンスパコーン (タイ先住民族・知識基金 (IKAP) 代表) ◇ 里山保全支援メカニズム(SDM)による支援事業の事例ータイ北部におけるカレン族の伝統的な生産システムの支援と促進の取組
16:40 - 17:10	パネルディスカッション(30分):ファシリテーター及びパネリストによる議論、ならびに会場からの質問に基づく討議
17:10 - 17:15	閉会



UNITED NATIONS
UNIVERSITY

UNU-IAS

Institute for the Advanced Study
of Sustainability

ISAP 2015

パラレル・セッション PL-11

IGES

Institute for Global
Environmental Strategies